

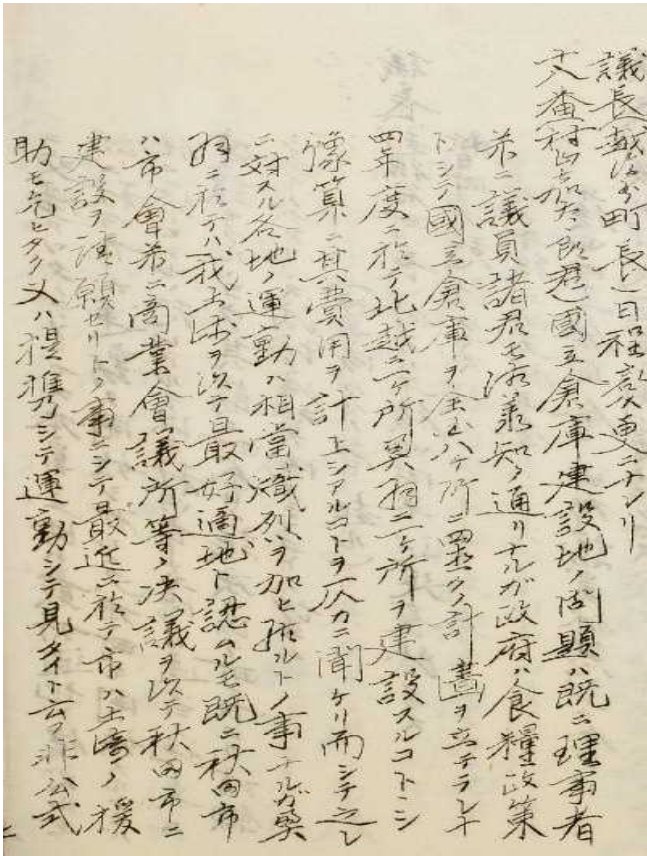
旧国立農業倉庫はどこに

新屋地区で、秋田公立美術大学実習棟や新屋図書館書庫棟などとして活用されているのが、旧国立農業倉庫です。

昭和9年に建てられた8棟の倉庫は、昭和14年から平成2年まで国が国立農業倉庫として管理し、米の需給調整を担ってきました。

建設にあたっては秋田市が有力視されていましたが、土崎港町も手を挙げていました。しかし、最終的には水運によって米が集積される新屋町に決まりました。

「大正14年 土崎港町会会議録」より



左の文書は、大正14年1月20日の土崎港町会会議録の一部です。

18番村山嘉太郎氏が、「国立倉庫を全国8カ所に置く計画があり、14年度は奥羽1カ所に建設する予定なので、土崎を最好適地と考える。しかし、秋田市は市会等の議決を得て既に建設を請願しているため、秋田・土崎間に建設するよう、町長より請願してほしい。」と提案しました。

結果として、新屋町に決定した経緯は不明ですが、昭和9年に秋田県販売購買組合連合会が米穀倉庫を建て、同14年に国に寄付して国立農業倉庫となりました。

右の写真は、並列する8棟の倉庫前面に「通り庇」が連なり、新屋駅からの引込線のプラットホームになっています。

全て同規模の木造平屋建てで、戦前期の大型建築物として貴重であることから、平成12年9月26日に国の登録有形文化財になりました。



現在の秋田公立美術大学実習棟ほか